

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※ :警報レベル

 :注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県)
	第41週	第41週	第42週	増減	第41週	第42週	増減	第41週	第42週	増減	第41週	第42週	増減	第41週	第42週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	1158 0.24	7 0.15	4 0.08	▼				7 1.40		▼					4 0.31	△	13942
小児科定点 (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	6378 2.02	173 5.77	154 5.13	▼	99 7.62	71 5.46	▼	8 2.67	3 1.00	▼	60 10.00	65 10.83	△	6 0.75	15 1.88	△	1047
咽頭結膜熱	668 0.21	3 0.10	3 0.10		2 0.15		▼				1 0.17	3 0.50	△				650
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	4030 1.28	80 2.67	112 3.73	△	49 3.77	70 5.38	▲				26 4.33	33 5.50	△	5 0.63	9 1.13	▲	5803
感染性胃腸炎	10825 3.43	52 1.73	93 3.10	△	12 0.92	46 3.54	△	8 2.67	8 2.67		14 2.33	18 3.00	△	18 2.25	21 2.63	▲	7020
水痘	821 0.26	6 0.20	13 0.43	△	5 0.38	7 0.54	▲				1 0.17	6 1.00	△				419
手足口病	3447 1.09	15 0.50	14 0.47	▼	9 0.69	7 0.54	▼				3 0.50	3 0.50		3 0.38	4 0.50	△	338
伝染性紅斑	292 0.09	2 0.07		▼							2 0.33		▼				1453
突発性発しん	1302 0.41	16 0.53	13 0.43	▼	4 0.31	3 0.23	▼	2 0.67	3 1.00	△	5 0.83	4 0.67	▼	5 0.63	3 0.38	▼	802
百日咳	57 0.02	2 0.07	1 0.03	▼	2 0.15	1 0.08	▼										19
ヘルパンギーナ	1734 0.55	26 0.87	32 1.07	△	7 0.54	6 0.46	▼		4 1.33	△	9 1.50	12 2.00	△	10 1.25	10 1.25		2840
流行性耳下腺炎	2978 0.94	35 1.17	54 1.80	△	12 0.92	21 1.62	△		5 1.67	△	22 3.67	26 4.33	△	1 0.13	2 0.25	△	2508
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	9 0.01																1
流行性角結膜炎	530 0.77	2 0.25	1 0.13	▼							1 1.00		▼	1 0.50	1 0.50		60
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	5 0.01	1 0.10		▼	1 0.25		▼										19
クラミジア肺炎	6 0.01																4
マイコプラズマ肺炎	579 1.23	4 0.40	7 0.70	△	1 0.25	3 0.75	△		1 1.00	△				3 1.00	3 1.00		115
細菌性髄膜炎	11 0.02																6
無菌性髄膜炎	23 0.05	1 0.10		▼										1 0.33		▼	12

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
結核	患者	1				
	無症状病原体保有者	1				※第41週追加報告分。
	疑似症患者	1				
腸管出血性大腸菌感染症	無症状病原体保有者		1			型別:O91 VT1。
	患者	1				※第41週追加報告分。型別:O111 VT1。
つつが虫病	患者		1			
侵襲性肺炎球菌感染症	患者	1				※第41週追加報告分。肺炎球菌ワクチン接種歴無し。

<通信欄>

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

<定点把握感染症 報告患者数 年齢別>

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ	1		1						1		1				
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79	80歳～									合計
															4
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	17	28	70	19	9	6	3	2							154
咽頭結膜熱			1	1	1										3
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	3	8	6	10	17	15	18	6	2	20	2	4	112
感染性胃腸炎	1	7	11	11	12	5	7	6	6	5	1	15	5	1	93
水痘		1		1	1	1	4	1	4						13
手足口病			7	3		1	1			1				1	14
伝染性紅斑															
突発性発しん		4	9												13
百日咳												1			1
ヘルパンギーナ		1	11	9	5	2	1		1			2			32
流行性耳下腺炎			2	2	8	11	13	8	6	1	2	1			54

<平成28年9月 月報>

2016年10月18日 更新

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～9月	
	8月	9月										
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	14	16	3	7	7	4	1	3	3	2	167
	定点当り	1.40	1.60	0.75	1.75	7.00	4.00	0.50	1.50	1.00	0.67	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	8	4	3	1	1	1	3	2	1		53
	定点当り	0.80	0.40	0.75	0.25	1.00	1.00	1.50	1.00	0.33		
尖圭コンジローマ	報告数	2	4	1	4					1		26
	定点当り	0.20	0.40	0.25	1.00					0.33		
淋菌感染症	報告数	2	4					2		2	2	18
	定点当り	0.20	0.40					1.00		0.67	0.67	
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	9	1	1		1				7	1	51
	定点当り	0.90	0.10	0.25		1.00				2.33	0.33	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	16	13	6	4	1	3		2	9	4	151
	定点当り	1.60	1.30	1.50	1.00	1.00	3.00		1.00	3.00	1.33	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数											
	定点当り											

<トピックス>

【RSウイルス感染症情報】

RSウイルス感染症の県全体の定点当たり報告数が、過去5年間に比べて高いレベルで推移しています。

今後の動向に注意し、感染予防に努めましょう。

RSウイルス感染症とは

RSウイルスの感染による呼吸器の感染症で、秋から冬にかけて流行します。2歳までには、ほぼすべての乳幼児が感染するとされています。

【症状】

潜伏期間は2～8日で、症状は軽い風邪様から重い肺炎まで様々です。初めて感染した場合は重くなるといわれており、特に乳児期早期(生後数週間～数ヶ月間)にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。

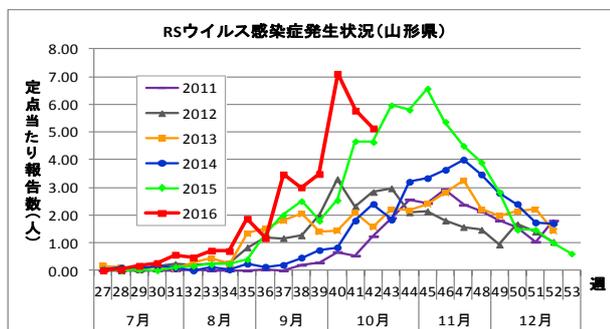
【予防法】

咳やくしゃみなどの飛沫感染、感染者との直接の濃厚接触、ウイルスが付着した手指や物を介した間接的な接触で感染します。

マスクの着用、子供たちが日常触れるおもちゃ、手すり等はアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒し、手洗いをこまめに行うことが大切です。

(参考URL : 厚生労働省 RSウイルス感染症Q&A

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekakaku-kansenshou19/rs_qa.html)



【インフルエンザ情報】

1 定点医療機関情報(第42週)

迅速診断キットによるインフルエンザウイルスの陽性件数
庄内地区:A型 3件、不明 1件

2 インフルエンザウイルス検出状況(衛生研究所 10月25日現在)

庄内地区の患者から、AH1pdm2009型 2検体が検出されています。

インフルエンザは、毎年、冬に流行し、私たちの健康に大きな影響を及ぼす代表的な呼吸器感染症です。感染力が強く、いったん流行が始まると短期間に多くの人へ感染が拡大します。

手洗いでインフルエンザを予防し、かかったら、マスク等咳エチケットを心がけましょう。

【つつが虫病情報】

つつが虫病の患者が、第42週に報告されています。つつが虫病は、病原体を有するツツガムシの幼虫に刺されて感染します。春から初夏にかけて多く発生し、秋にも発生がみられますので、注意が必要です。

【症状】

発熱(38～40℃)、発疹、ツツガムシ幼虫の刺し口が見られることが特徴です。これらの症状は、ツツガムシ幼虫に刺されてから5～14日後にみられます。

【予防法】

ツツガムシは、田畑、山林、やぶ、河川敷、草原などに生息しています。これらの場所に立ち入るときは、次のようなことを心がけることが大切です。

- ①長袖、長ズボン、長靴、手袋などを着用し、素肌をできるだけ露出しない。
- ②ダニ忌避剤、防虫剤を衣服に散布する。
- ③なるべく草むらに直接座らない。
- ④帰宅したら早めに入浴し、ツツガムシ幼虫を洗い流す。